

<b>授業科目名</b>	助産診断・技術学実習 (2300418)		
<b>時間割名</b>	助産診断・技術学実習 (70239)		
<b>時間割担当</b>	服部律子 美甘祥子 高田勝子		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	3 選択
<b>曜日・時限</b>	集中		

### 授業の目標・概要

妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児とその家族を継続的に受け持ち、助産過程を展開することができる。

1. 妊娠・分娩・産褥期にある女性の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児および新生児の発育・発達および健康状態を正しく把握し、適切な助産過程を展開する。

### 学習の到達目標

1. 妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児とその家族を継続的に受け持ち、助産過程を展開することができる。

### 授業方法・形式

実習（臨地）

### 授業計画

助産学実習 ～ は並行して開講する。

実習期間：平成30年6月～平成30年11月

詳細は実習要項に示す。

### 成績評価の基準

実習目標への到達度（実習内容、実習記録、最終レポートを含む）90%、カンファレンス等への参加度・実習態度10%

### 準備学習・復習及び授業時間外の課題

実習での学びの整理、対象への助産を実習するために必要な準備を行った上で実習に臨むこと。

### 履修上のアドバイス及び留意点

既習の医学、看護学、助産学等の科目の学びを統合し、安全に助産を行うための基礎的実践力の習得に努めてください。

実習中は体調管理に留意し、学生間で協力をしながら、学習者としての真摯な態度で実習に臨んでください。また、教員、臨地実習指導者等への連絡、報告、相談を密にし、安全に学び多い実習ができるよう努めてください。

分娩介助例数の合計が10例に満たない場合、実習期間を延長して実習することがあります。

### 教材・教科書

特に定めなし。今までに使用したテキスト等を使用してください。

### 参考書

適宜、紹介する。